

## オゾン健康を育む

中室 克彦(著/文)、発行:ブイツーソリューション、〒466-0848 名古屋市昭和区長戸町 4-40、TEL:052-799-7391、B5判、152 ページ、定価 1,500 円+税、2022 年 5 月 14 日初版発行、ISBN:978-4-434-30326-5

今回ご紹介する書籍である「オゾン健康を育む」は、摂南大学名誉教授で、現在日本医療・オゾン学会副会長、その他の職務に従事されておられる中室 克彦氏が、ご自身の長年の研究生活の中で培われた業績ならびに知識等を中心にまとめられた書籍である。

本書の紹介の中で、「オゾン(オゾンガスとオゾン水)をもっと知って、生活空間から宇宙空間に至るまでさらなる利・活用の普及に繋がることを祈って本書を執筆しました。オゾンの強い酸化力の特性から、手指の消毒洗浄、ホテル・居住空間の脱臭・除菌、水道の浄水処理、排水の浄化処理や食品分野における食品添加物としての使用など枚挙にいとまがありません。」と述べられている。

また、「本書は、オゾンの基本的な性状・特性および安全性情報などを分かりやすく解説しています。またオゾンの酸化力の利用は、殺菌・消毒・除菌、消臭・脱色、有機物の分解作用、また生理作用として疾病等の治療作用、植物の発育促進作用など広い分野における利・活用においてヒトの健康に焦点を当て低濃度オゾンガスおよびオゾン水の利用の実際について詳述しています。特に健康維持にオゾン療法がどのように有効作用を発揮するかについて、その作用メカニズムを見れば容易に納得していただけます。」とも書かれている。まさに的を得た表現であると思われる。

次に、本書の内容紹介について、若干解説させていただく。

まず、冒頭(巻頭)の箇所では、カラー刷りの解説が列挙されており、より内容の理解につながる書面構成である。

「はじめに」では、まず WHO 憲章の健康の定義が紹介され、生活習慣病にならないための生活改善に必要な要因が取り上げられている。また、オゾンはその酸化力で、感染防止に深い関係があり、食品、水処理、医療などの分野において殺菌・消毒の用途で広く用いられていることが述べられている。

第1章は、「オゾンを知ろう(オゾンとは)」と題して、オゾンの発見者ならびに命名者であるクリスチャン・シェーンバインのことが述べられている。また、オゾンと酸素の違い、オゾンガスとオゾン水の違い、オゾンは酸化力が強いいためオゾン同志反応し酸素を生成する、オゾンが反応しやすい有機物はどのような構造をもっているか?、その他が解説されている。

第2章は、「オゾンと人類の関連」と題して、オゾン層がなければ人類は生まれない、成層圏のオゾンはどのようにしてつくられるか、大気圏のオゾン(光化学オキシダント)はどのようにつくられるか、オゾンは生体内でもつくられる、およびその他の項目が紹介されている。

第3章は、「オゾンの性質をより知り安全に使えば怖くない」と題して、オゾンガスとオゾン水の安全性情報、オゾンガスとオゾン水の毒性の違い、オゾンの規制・基準、ならびにその他の項目が述べられている。

第4章は、「オゾンの直接作用としての殺菌および殺ウイルス効果」と題して、感染症予防のための殺菌・消毒、オゾンの消毒に重要な働きを持つ・OH ラジカルは水の存在で生成する、オゾンによる殺菌効果、臭気成分濃度とにおいの感覚量は比例しない:脱臭作用、およびその他の項目が紹介されている。

第5章は、「新しい時代のオゾン療法は自然治療効果をさらに強化する」と題して、生活習慣病にならないために、平均寿命は豊かな国ほど高く、貧しい国ほど低い、慢性毒性によって発症する疾患の代表は悪性腫瘍(がん)、ヒトは誕生から一生涯において多くの化学物質の暴露を受けている、疾病の自然史とは、自然治療力と統合医療(オゾン療法)のことが、詳細に述べられている。

また、第6章は、「オゾン療法のすべてが分かる」と題して、オゾン療法の歴史、オゾン療法ってどんなもの?、我が国のオゾン療法の現状が述べられている。

最後に、第7章は、「オゾン利用の未来」と題して、オゾンの利用分野について改めて見直し、オゾンの利・活用分野の広がり、美容・アンチエイジング・介護分野におけるオゾンの新たな利用形態、ならびに新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の原因ウイルスである SERS-CoV-2 に対するオゾンガスやオゾン水による不活化効果試験結果について紹介されている。

なお、余談ではあるが、「かんきつ殺菌にオゾン ベンチャーが装置開発 常温で長期保存」という記事が、2022 年 5 月 2 日付けの日本農業新聞の経済面でも紹介されているが、オゾンは今後ともより発展が期待される分野であると考えられる。

以上、本書の内容等について述べてきたが、本書は、日本防菌防黴学会の会員各位だけでなく、周辺分野ならびに一般市民等に対しても、オゾンの基礎知識ならびに有用性等について、非常に参考になる書籍であることを強調し、図書紹介とする。(元 近畿大学 坂上 吉一)